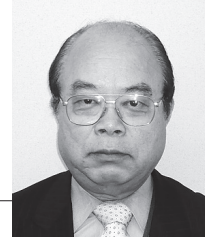


退任のごあいさつ



一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会 前会長 小林 康昭

このたび連合会の会長職を退任することとなりました。顧みますと、平成20年5月にこの職務に就かせて頂いて以来、6年の間、務めることができましたことは、ひとえに、関係各位の皆様方のご支援によることと、心からお礼を申し上げます。

6年間を振り返ってみますと、最も印象に残っておりますのは、東日本大震災の辛い記憶です。大震災が発生した3月11日当日の午後は偶々、都心で土木施工管理技士を選抜するための技術検定試験を審議する委員会を開催しておりました。激震が収まるのを待って、余震で揺すられる机にしがみつきながら、予定の議事を強行したかきがあつて、その後の日程をつつがなく予定通り進めることが出来たので、その年の受験生たちにご迷惑をかけずに済んだことは誠に幸いでした。

この大震災に関わる救済、復旧、復興に尽くされた建設企業や土木技術者の方々の決死の献身が多く、称賛を受けたことは、大いに誇りとしたと思います。被災直後には、3年後の今もお尾を引くような深刻な影響が及ぶとは思いませんでした。その深刻さゆえに、私たちの生活観、社会観、価値観に大きな変化をもたらしたように思います。当然ながら建設業のあり方にも、変化を迫られることでありましょう。

例えば、ともすれば安くさえあれば由とした、従来からの公共事業の価値観も問われております。このことは、とりも

なおさず、土木技術者の生き方にも大きな影響を与えずにはおられない筈であります。

現在、土木技術者を取り巻く社会的な環境の中では、東日本大震災の復興や東京五輪に関わる公共事業が話題を占めております。しかし、目を転ずればこうした一過性の問題にとどまらず、例えば、南海トラフで代表される、今後予想される大震災に対する備え、あるいは、地球規模の今までに経験したことがない異常気象による水害の対応、そして、先達が営々と築いてきた諸々のインフラストラクチャの長寿命化や維持管理に関する課題などの大きな務めが、ことごとく土木技術者の双肩にかかっていることが分かります。

こうした責務を担う土木技術者の核となるべき土木施工管理技士、そして全国をあまねく網羅する各技士会、これを束ねる連合会は、これまでの諸先輩たちの熱い想いを忘れることなく、そして一層、技術者の技量向上、施工技術の進歩、職場環境の改善などに向けた努力を続けて下さると同時に、激しく変動する時代の流れを的確にとらえながら、社会の期待に応えて、今後ますます活躍の場を広げて頂きたいと思っております。

後任をお願いをした元国土交通省事務次官で現国土技術研究センターの谷口理事長には、私同様の皆様方のご支援、ご協力を心からお願いいたしまして、退任のご挨拶といたします。